

## ボランテニアの 学生やひだまりの感想



「縁があり、東京の文京学院大学の学生の方々ボランテニアに来てくださるようになって、もう5年目になります。わたしも原稿書かせていただき、10月に出版される『世界中の子どもの権利をまもる30の方法』の編集者でもある甲斐田万智子先生（文京学院大学外国語学部教授）がボランテニア部の学生にたけの子を紹介してくださるのです。

今回は女子3名、全員ボランテニア初体験の1年生でした。子どもと関わるボランテニアということで参加したとのことだったので、3日間たつぷりと子どもたちと関わってもらいました。その中で、いろんなことを感じてくださったようです。

●私は今回のボランテニアで**子供の想像力に1番驚きを感じました**。都内の子供は、遊具で遊んだり、携帯ゲームで遊んだりと時代の発展に伴い、遊び方が近代的だなと思いました。また森林が破壊され、自然と触れ合う機会が少なくなると改めて感じさせられました。そんな中、青空保育たけのこでは、自然の中で遊びを考え、どうしたら遊びをさらに楽しくできるかを子供達自身で考え、遊んでいました。

例えば、ただ自転車を漕いで遊んでるだけではつまらないと思ったのか、木の板を道並べ、段差を作り、障害物を作って遊ぶという遊びを子供達自身で考え、あそんでいました。私はこの光景をみて、**大人では考えられないことのない想像力の高さに感動を覚え**ました。

子供達と触れ合うにあたって、最初は不安だらけで、

どこまで子供たちを支えていいのか、限度が分からずおそらく子供達より緊張していました。しかし、子供達から声をたくさんかけてくれて徐々にになれることができました。

子供は、失敗をしてこそ何事も覚えていきますが、私はそれを見て、子供は大人より強いのではないか思いました。大人は失敗することを恐れているなと思いました。私自身も子供達に勇気をもらいました。今後は何事にも挑戦していきたいと思えます。

今回のボランテニア経験を活かして、子供に関わるボランテニアはもちろんのこと、色々なボランテニアに参加していきたいなと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

●今回のボランテニアに参加して、関東の子供達に足りないものではないですが、子供のうちに経験しておくことがなにかを学ぶことができたと思います。創造力や発想力もそうですが、**なによりたけのこの子供達は協調性が強くありました**。ひとりで遊ぶことを選ばないといえますか、だれかと遊んで皆が楽しくなるようなことをあの子供達は自然と考えられるのだなと感じました。

そして私自身、本を成長するにつれて読むことがなくなり、携帯で全て行ってしまっていたことをすごくもったいないなと感じました。たけのこには、たくさん絵本や難しい本までたくさん種類の本が準備されていて、楽しく学ぶことができる空間が作られていたと思います。みんな**考えることを怠らない子供達が多く**、学ぶことがたくさんありました。

今回、参加してすごくよい経験になったと思いましたが、これからは、少しずつではありますが、経験を積んでいけたらと考えています。

●今回ボランテニアに行つて強く感じたのは**子供達の強さと、子供達に自分たちでやらせることの大切さ**です。

私がボランテニアで1番驚いたことは、2日目にたけのこのスタッフの方が子供達にダンスの解体をお願いしていたことでした。それを聞いた時私は危ないんじゃないのか、本当に大丈夫なのかとても不安になりました。ですが子供達はやる気満々でトンカチを持って、どこからやったら簡単に壊れるのか、私たちが解体してるのを見て真似して上手に解体していました。私は子供には危ないことはできないから代わりにやってあげようという気持ちが強かったのですが、これをみて**子供たちにはやる気もあつて教えてあげればできるのに、危険という言葉だけで子供たちの自分たちでやろうとする気持ちを潰してはダメだ**なんだなということに気づかされました。

このほかにも、何も自然のものから遊びを作り出す想像力を見せてもらったり、私も知らなかった鬼ごっこのような遊びを教えてもらえたり子供達にはたくさんのお話を教えてもらいました。ボランテニアに伺った3日間スタッフの方々と子供たちのお陰でとても楽しい時間を過ごせていただけてとても感謝していますし、本当に行つてよかったと思っています。

これらの感想を終わりの会で子どもたちに伝えました。自分たちの遊びや行動が大人に感動を与えたという話を聞いて、子どもたちは理由は理解できなかったかもしれませんが、誇らしげでした。辺見妙子 **寄付や支援をいただいた 方々9月 順不同**

支援金 渡部 鋭幸様 伊藤 エリカ様 小井出 明子様  
佐久間 美千子様 高橋 弘行様

ジュース 森 雅英様